

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人高知県文化財団	
施 設 名	高知県立美術館	
助成対象活動名	公演事業	
内定額(総額)	12,169	(千円)
公演事業	12,169	(千円)
人材養成事業		(千円)
普及啓発事業		(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	高知パフォーミング・ アーツ・フェスティバ ル2018 向井山朋子 「HOME」公演	4月30日～5月12日	出演者：湯浅永麻 スタッフ：向井山朋子（コンセプ ト、演出、音楽、映像、振付）遠 藤豊（映像、技術監修）	目標値	230
		香南市赤岡町「赤れん が商家」		実績値	483
2	高知パフォーミング・ アーツ・フェスティバ ル2018日本・オランダ 国際共同製作「雅歌」 公演	7月13日・14日	出演者：湯浅永麻、神崎智紀、 Co.山田うん（飯森沙百合、伊藤智 奈子、西田祥子、西山友貴、広末 知紗、三田瑠子、山崎真結、山下 彩子） スタッフ：山田うん（振付）、マ キシム・シャリギン（音楽）、 ティン・ゴング（衣裳）	目標値	300
		高知県立美術館・中庭		実績値	377
3	高知パフォーミング・ アーツ・フェスティバ ル2018 アーティス ト・イン・レジデンス 「ランダール&サイト ル」（スウェーデン）	11月3日・4日	ガイドパフォーマンス：住吉山実 里、中山桃歌、藤川典子、藤村美 祐、浜田あゆみ、山本柚来、山本 かなこ、片岡美由紀 スタッフ：クリスター・ランダー ル（ビジュアルアーティスト）、 マルティナ・サイトル（振付）	目標値	50
		高知県立美術館・回廊		実績値	100
4	高知パフォーミング・ アーツ・フェスティバ ル2018「東京ゲゲゲ イ」公演	2月3日	出演者：MIKEY、BOW、MARIE、 MIKU、YUYU スタッフ：吉本均（舞台監督）	目標値	350
		高知県立美術館ホール		実績値	389
5	高知パフォーミング・ アーツ・フェスティバ ル2018 「出前演劇教 室」	2月21日・22日	出演者：カンパニーデラシネラ （小野寺修二、藤田桃子）	目標値	80
		田野小、本山小、土佐 町小		実績値	84
6	高知パフォーミング・ アーツ・フェスティバ ル2018「出前クラシ ック教室」	10月27日・12月3日・2 月7日・14日・25日・26 日・3月5日	出演者：アンサンブル・パレット （福田香苗、杉本成美、中山園、 川村陽華、岡林綾）	目標値	360
		日高養護学校、子鹿園 分校、高知小、安和 小、高知特別支援学 校、田野小		実績値	417
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	1,370
				実績値	1,850

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当館は、高知県における芸術文化の発信基地として、2005年に高知県立美術館ホール活性化計画を策定しており、

「地域の芸術文化の拠点として、世界に開かれた施設」

「誰もがアート・リテラシーを育み、感性を高める事の出来る環境」

「創造性にあふれた地域社会の創出」

の3つの基本方針のもと、

①総合文化施設としての機能を活かし、ジャンルを融合した舞台芸術の創造を図り、製作した作品の国内・国外での上演を行う「公演事業」

②舞台芸術を身近に感じてもらうため、ホール以外の場所でも舞台芸術の創造を行う「公演事業」

③作品創造と地域の芸術家及び住民が海外の芸術家と繋がるアーティスト・イン・レジデンス事業の「人材育成事業」

④未来の芸術家及び鑑賞者を育てるワークショップ、出前演劇教室及び出前クラシック教室「普及事業」を行っている。

これらの目標を達成するために、平成30年度は、

①では、日本・オランダ国際共同製作「雅歌」公演を開催。6月中旬にオランダで初演を行い、7月中旬に高知県立美術館中庭で野外公演を行った。

②では、赤岡町の「赤れんが商家」を改装し舞台空間を作り「HOME」公演を行った。

③では、スウェーデンから男女2人からなる「ランダール&サイトル」を迎え、約1か月高知に滞在し、地元のダンサー達と体験型ミュージアムツアー・パフォーマンスを作り上げた。

④では「出前演劇教室」や「出前クラシック教室」を行い、いずれも当初の予定通り進められた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

助成対象となる「高知パフォーミング・アーツ・フェスティバル2018」は、2010年より毎年継続して開催し、3つの基本方針を基に事業を行っている。

①は「雅歌」で世界と直接繋がる公演。

②は「ランダール&サイトル」公演で感性を高める事の出来る環境づくり。

③は「HOME」公演で地域社会の創出。

などを行い、文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められる。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

当館は、平成30年度「高知パフォーミング・アーツ・フェスティバル2018」として6つの自主事業を行った。

①の「HOME」公演では高知県東部の香南市赤岡町の「赤れんが商家」で居間を改装し舞台空間を作り公演を行った。指標では、「HOME」公演は、赤岡町の赤れんが商家の中という限られた設定の公演なので、1回25名限定のパフォーマンスを10回行う予定であったが、スペースに余裕があれば、人数や回数を増やし、地域における実演芸術の振興に貢献するとした。公演は回数を18回まで増やし、また25席以上の回も設けることが出来たので、入場者・参加者の目標の360人を大きく上回る483人が公演を鑑賞した。

②の「雅歌」公演は、指標では、美術館中庭を舞台に公演を行う為、客席を設定できる広さが限られるので、1回200人×2回の公演を予定していたが、これもスペースに余裕があれば客席を増やし、県民の鑑賞活動又は文化芸術活動の拡大を図るとした。公演は最終的に観客席スペースが小さくなり、377人となったが、入場者・参加者数の目標は300人に設定していたのでこれも目標値を上回ることが出来た。

③のアーティスト・イン・レジデンス「ランダール&サイトル」はワークショップ参加者や実演者数を50人と予定していたが、開館記念日にパフォーマンスを行う事で、この人数を増加させるとした。公演は開館記念日と翌日にも行うことが出来たので、入場者・参加者数の目標50人を上回り、計20回、100人が体験出来た。

④の「東京ゲゲゲイ」公演は唯一のホール公演なので入場目標350人、入場者率87%を立てた。座席数は客席内に機材スペースを確保したため389席となったが、前売券が完売となった。

⑤は1回40人×2回としたが、結果的には3回行うことが出来、目標入場者80人を上回る84人が体験出来た。

⑥は1回30人×12回で360人の目標を立てた。結果的には10回ではあったが目標人数を上回る417人が体験することが出来た。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

助成対象となる「高知パフォーミング・アーツ・フェスティバル2018」の六つの事業期間は、当初

- ①は5月上旬
- ②は7月13日（金）14日（土）
- ③は11月3日（土・祝）4日（日）
- ④は2月2日（土）
- ⑤は1月予定
- ⑥は1月～2月

という事業計画を立てていた。

確定した事業期間は、

- ①が4月30日（月・祝）～5月12日（土）
- ②が7月13日（土）14日（日）
- ③が11月3日（土・祝）4日（日）
- ④が2月3日（日）
- ⑤が2月21日（木）22日（金）
- ⑥が10月27日（土）12月3日（月）2月7日（木）14日（木）25日（月）26日（火）3月5日（火）

となり、出前事業を除いては、ほぼ予定通り行うことが出来た。出前事業は、学校側とアーティストのスケジュール調整の必要があり、早くから日程を確定することは難しい。また助成対象経費の予算額は、32,900,000円だったが、決算額は23,739,000円となり変更額9,161,000円、変更率は-27,8%であった。減額の理由は、

- ①は旅費があまりかからなかった事。
- ②は照明費、音響費、大道具などのスタッフ人件・機材費が当初想定よりも必要でなかった事。
- ③も機材費がほとんど必要でなかった事。
- ④はチケットが先行販売でほぼ完売となったため、広告費がほとんど必要でなかった事。
- ⑤⑥に関しては支出はほぼ予定通りだった。

また収入に関しては、1,814,000円の予算に対し、実績は2,212,000円となった。これは当初①を無料としていたのを、入場料を徴収することに変更したためである。事業期間、事業費は適切であったと考えられる。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当館は、高知県立美術館ホール活性化計画の中で

「地域の芸術文化の拠点として、世界に開かれた施設」

「誰もがアート・リテラシーを育み、感性を高める事の出来る環境」

「創造性にあふれた地域社会の創出」

の3つの基本方針を定め、それを達成するために、

- ①世界とつながる創造的で質の高い芸術を提供します。
- ②新たな芸術を創造・発信します。
- ③芸術を通して子どもたちの想像力と創造性を育みます。
- ④高知県の生んだ芸術や芸術家の発掘・保存・紹介・発展に貢献します。

という事業目標を立てている。

事業での

「地域の文化拠点の機能」では過去に様々な直接招へいや共同招へい事業を行ってきた経験を活かし、平成30年度は日蘭国際共同製作「雅歌」公演を行った。作品は5月にオーディション開催、6月上旬にオランダ、テルスヘリング島でリハーサル、6月中旬にウーロル・フェスティバルで初演を行い、7月中旬に高知県立美術館中庭で野外公演を行い、東京・神津島の前浜海岸の初演3都市ツアーが実現した。

「感性を高める事の出来る環境」は平成23年度から継続して行っているアーティスト・イン・レジデンス事業としてスウェーデンから男女2人のユニット「ランダール&サイトル」を迎え、約1か月の滞在の後事業を行った。作品の核となるパフォーマー達は県内のアーティスト達で構成され、当館収蔵品や建物、美術館職員、学芸員、舞台芸術プロデューサー、来館者などから横断的に物語の要素を収集してリサーチを行い、作品を完成させた。

「地域社会の創出」では、香南市赤岡町に古くからある「赤れんが商家」を舞台として上演した。地域に根ざして、芸術文化を資源にした活動やパフォーミング・アーツによって町の再生を図ることが出来た。また平成30年度も継続して出前演劇教室、出前クラシック教室も学校へと出向き開催し、地域の文化拠点として地域の資源や機能を活用しながら優れた事業を行った。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

事業での地域の文化振興や芸術発展は、

「HOME」公演では、香南市赤岡町の「赤れんが商家」を借り居間を改修し公演を行った。商家を運営する「すてきなまち・赤岡プロジェクト」を中心に赤岡町にある絵金蔵（美術館）や古民家の調査・研究・改修にあたる高知工業高等専門学校、地域のお店、住民の協力を得ることで地域資源の再発掘、再発信に貢献した。今後高知県内の公立文化施設や民間団体との連携を強め、高知県内の地域起こしにパフォーマンス・アーツを活かしていく公演となった。

「雅歌」公演では、高知在住または出身とする出演者をワークショップ型オーディションの形式で募集し、世界で活躍するアーティストらと創造的な交流を促せた。新作の創作初期のプロセスを公開することで地元アーティストら個々の創作意欲や研鑽意欲に繋がり、6歳から69歳の幅広い年齢層が集まり、普段出逢うことのない地元アーティスト同士の交流と刺激も生まれた。公演には10代、20代、30代、40代の各世代から1名ずつ採用され、本作の音楽的演出を補う出演を果たし、未来へ続く地元アーティストを育てることが出来た。

「ランダール&サイトル」のレジデンス公演では、参加者を導くパフォーマーたちは、高知県在住や所縁あるダンスやパフォーマンス活動を行う7名が参加。うち3名は10代のバレエダンサーが参加し、地元における将来の担い手を育む事が出来た。作品の声のテキストの邦訳・監修に、高知県出身の批評家を起用。1ヶ月間の滞在制作に同行し、本作品を作り上げ、地元の人々が世界とつながる作品となった。

「出前演劇教室」「出前クラシック教室」では学校へ出向き、子どもたちが芸術を身近で体験することが出来、地域の発展に繋がった。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

2005年に「高知県立美術館ホール活性化計画」を立て、2010年から高知パフォーミング・アーツ・フェスティバルという形で発展させる中、海外からの単独招聘、共同招聘やアーティスト・イン・レジデンスを通じた作品創造、国際共同製作等を行ってきた。今後も、国際共同製作やアーティスト・イン・レジデンスを通じた作品創造、日本では招聘されていない海外の舞台芸術の紹介を通じて、地域と日本全体の芸術文化の発展に貢献する。

そのためには、ホール事業担当者は、文化庁や全国公立文化施設協会、（一財）地域創造が主催する講座や研修会に積極的に参加、劇場スタッフとしての知識や情報を入手し、他館とのネットワークを築いている。当館においても、文化庁委嘱事業中四国アートマネジメント研修会、トヨタアートマネジメント講座、国際交流基金文化事業連絡会、ステージ・ラボ高知セッションの開催など積極的に人材育成に取り組んできている。

また、東京芸術見本市や国内の芸術祭のみならず、海外の芸術祭や芸術見本市に積極的に参加し、海外ネットワークの構築や、マネジメントスキルの向上を図っている。この2年間に、ドイツ文化施設視察団への参加やオーストラリア芸術見本市（ブリスベン）、フェスティバルトランスアメリカ（モントリオール）、カルフル国際舞台芸術祭（ケベックシティ）、タレガ芸術祭（スペイン）、モントリオール芸術祭、フィンランドの芸術見本市やダンスフェスティバルなどに数多く参加。また国際交流基金アジアセンターの若手制作者育成プログラム、国際交流基金ソウル文化センターの若手舞台芸術関係者派遣事業に参加するなどスタッフ一人一人の専門性の向上を図り、常に今回のような新作事業のチャレンジすることで組織全体の事業執行力の強化につなげている。